お子さんと一緒に

てくてくあるこう



たくさん歩いて経験させてあげましょう

道路には危険がいっぱい。でも、こどもに「危ないから気をつけて」と言っても具体的にはわかりません。「周りを見ながら自分の足で歩く」ことで、道路の状況や危険を感じ取らせてあげましょう。それには、周りの大人が交通ルールを守ることが大切。お手本を示しながら、こども目線で安全な歩き方を教えてあげましょう。

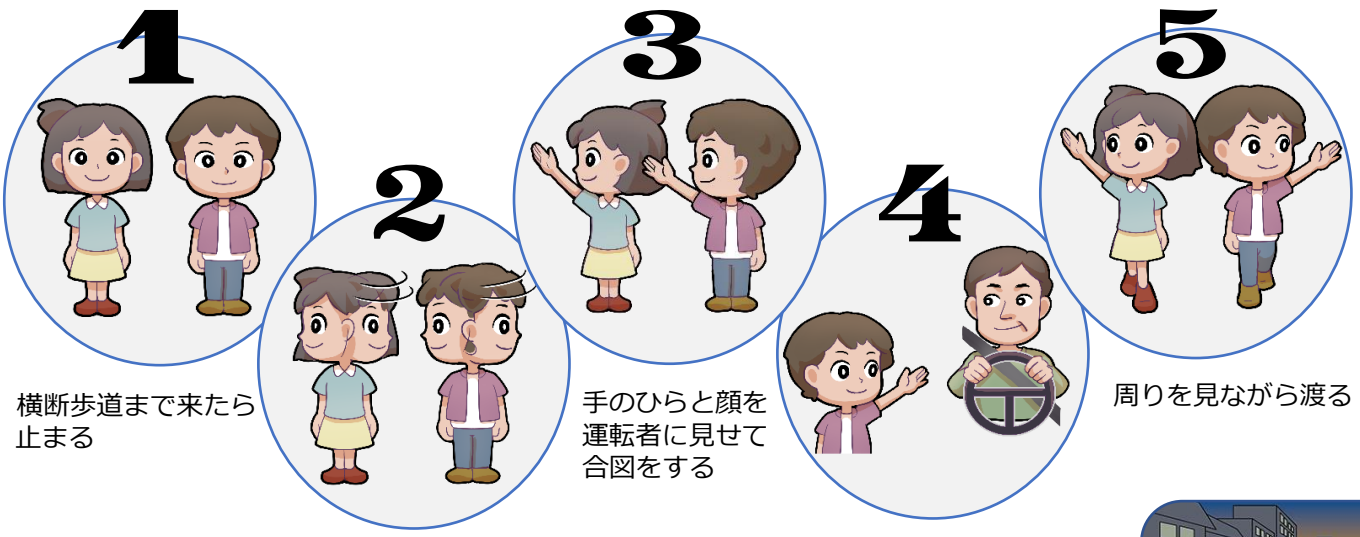
こどもから目を離さないでください

一緒に歩いていても、ちょっとした油断でこどもが急に飛び出し、車と衝突することがあります。大人がこどもとしっかり手をつなぐことで、こどもを交通事故から守りましょう。

また、一緒にいる大人がスマホに夢中になり、こどもが走り出しても気づかないケースもあります。スマホはカバンなどにしまって、お子様から目を離さないようにしましょう。



信号機のない横断歩道は、合図横断で渡りましょう



夕暮れ、夜間の外出に備え、「反射材」や、自ら光を発する「自発光式ライト」を身につけましょう



京 都 府 警 察